

## 子どものこころの 発達を考える

金沢大学 人間社会学域人文学類  
金沢大学 子どものこころの発達研究センター

荒木 友希子



## 自閉症とは

× ひきこもり・うちに閉じこもっている

◆ 3つの行動特徴

- ① 他者との交流がうまくとれない (社会性の問題)
- ② 言葉の発達の遅れ (コミュニケーションの問題)
- ③ 興味や関心が狭く、特定のものにこだわる (想像力の問題)

◆ 3歳くらいまでに認められる

◆ 親の養育態度の問題ではなく、**脳の器質的問題**

## 自己紹介

- 金沢大学 人間社会学域人文学類心理学コース  
准教授
- 金沢大学 子どものこころの発達研究センター 兼任
- 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学  
連合大学院小児発達学研究科(後期課程) 兼任

## ①社会性の問題

◆ 人との交流が難しい

- 孤立型  
人に関心を示さない
- 受動型  
自分から関わらず受け身で応じる
- 積極・奇異型  
人に積極的に関わるが、その関わり方がユニーク
- 形式型  
過度に礼儀正しく、大仰な態度をとる



## 金沢大学 子どものこころの発達研究センター

- 金沢大学附属病院 子どものこころの診療科
- 発達障害の専門外来

**発達障害とは**(発達障害者支援法, 平成17年)

- **自閉症**, アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害, 学習障害(LD), 注意欠陥多動性障害(ADHD), その他これに類する**脳機能の障害**であってその症状が**通常低年齢**において発現するもの

## ①社会性の問題

◆ **非言語的行動の理解や表現が困難**

- 表情, 見振りや手振り, 相づち, 姿勢など
- 目があいにくい
- 後追いをしない
- 人見知りしない



## ②コミュニケーションの問題

### ことばの使い方に問題がある



#### ◆理解の仕方

字義通りにしか解釈できない  
 比喩, ユーモア, 皮肉, 暗黙の前提, 省略は通用しない

- 例:「そろそろ頭切ってきた方がいいねえ」「頭切ったら痛いよ」
- 例:「お父さんによろしくお伝え下さい」

#### ◆表現の仕方

状況に応じて使い分けることができない(いわゆるKY)

- 例: 誰に対しても敬語を使う
- 例: 一方的に話す(相手の関心の有無におかまひなく)

## ③想像力の問題



- ◆イメージを持つことはできる

(例)組み立て図を一瞬見ただけでプラモデルを即座に作る



現実の物が忠実に脳裏に思い浮かぶため  
 そのイメージがかえって柔軟な想像力を邪魔



物への**こだわり**の世界が形成されていく

## ②コミュニケーションの問題

### ◆独特のことばの使い方をする

- 例: おうむ返し  
 「今日誰と来たの?」と聞かれても同じ言葉で返す
- 例: 要求と質問のイントネーションが同じ  
 「ミルク, ほしいの!」
- 例: 逆転バイバイ
- 例: 「ただいま」



## 物や行動へのこだわり

### ◆順序の固執

- 物の位置にこだわる
- 同じやり方にこだわる
- 順序にこだわる  
 → 思い通りにいかないとパニックに陥る



### ◆興味の局限

- 特定のマークや記号, 換気扇にだけ注目して突進する
- ミニカーを一列に並べる, タイヤを回している



## ③想像力の問題

### ◆見立て遊びやごっこ遊びが苦手

- (例)積み木をトラックに見立てて遊べない  
 (例)お店屋さんごっこで, 遊びを展開できない



子どもは, 見立て遊びやごっこ遊びを通して  
 想像の世界で他者と豊かに関わっていく

- 見立て遊びやごっこ遊びができない  
 → イメージができない? 想像ができない?

## 物や行動へのこだわり

### ◆反復自己刺激行動

- 手のひらを目の前でくるくるさせる
- 手をひらひらと振る
- コマのようにくるくと回って遊ぶ
- あちこち走り回り, じっとしてられない



## 感覚のかたより

### ● 触覚

- ぐにやぐにや・ざらざらした手触りが苦手  
(例) 粘土, 砂
- ちくちくした肌触りが苦手  
(例) タートルネックの服
- もそもそした舌触りが苦手  
(例) 芋は食べられない



## 気になる乳児はいませんか

- 視線があわない
- 人の顔や声に興味を示さない
- 抱っこをいやがる
- お友達と遊ばない
- おとなしく、手がかからない
- 人見知りが少ない
- 指さしが少ない
- 見立て遊びが少ない
- 赤ちゃんことばがすくない



自閉症??

## 感覚のかたより

### ● 聴覚過敏

選択的注意ができないため、すべての聴覚情報を等価的に取り込んでしまい、聴覚情報の洪水状態になる

### ● 視覚

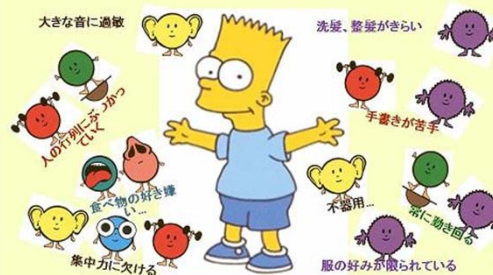
- 丸い物, 回っている物をつい見てしまう
- 平衡感覚(反復自己刺激行動と関連)
  - 目がまわりにくい

### ● 圧覚

- ぎゅっと身体を押さえられるのを嫌がる・好む



### 自閉症スペクトラム障害をもつ子どもたちの特徴



引用: Myles, Cook, Miller, Rimmer & Robbins. (2000). *Asperger Syndrome and sensory issues: Practical solutions for making sense of the world*. Shawnee Mission, KS: Autism Asperger Publishing. P. 5.

## 身体の使い方の問題

- 歩き方や走り方がぎこちない
- ボール遊びなどの運動競技が苦手
- 手先の動作が不自由
  - はしの使い方が下手
  - 字がうまく書けない
  - 工作が苦手



→ 強い劣等感を感じやすいため、特訓は逆効果

## 自閉症はスペクトラムである

### スペクトラムとは

- ◆ 光をプリズムにかけると波長によって虹のように色が分かれる現象
- ◆ 光の色層は互いに混じり合って見える



### 自閉症とは

- 非常に幅広い状態像を含む、障害から健常までの連続体
- 区別の難しい複数の症状群





## 自閉症スペクトラム障害

### ◆ 知的能力 (IQ)

- 重度の障害 (話し言葉を持たない)
- 知的問題のない人 (IQ70以上・高機能自閉症)
- 知的水準が極めて高い人 (IQ120, アスペルガー症候群)



### サヴァン症候群:

自閉症者のうち、限られたジャンルで、普通では考えられないような能力を発揮する人

## 4歳ごろの子どもの様子

- 年中組から年長組と合同の活動が多くなる  
→ 自分でできることが多くなってきた
- 娘4歳ごろ「お母さんは、さあちゃんが保育園でどうしているか、心配？」  
→ 母親という他者の心の動きを想像している

4歳前後を境に、発達に変化



心理学研究の知見からも、その通り

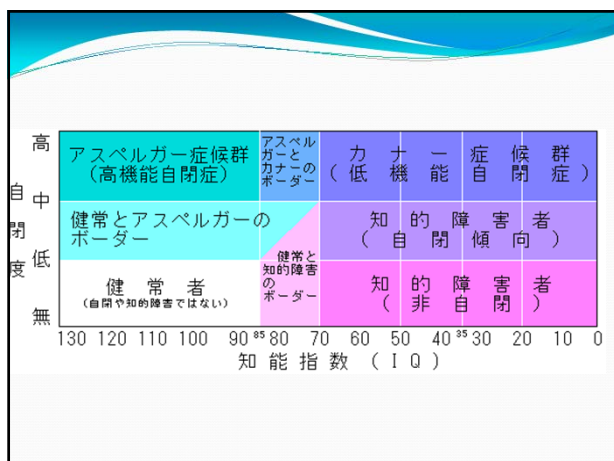
## 自閉症の有病率

### ◆ 一般人口の中でどのくらいいるか

- 約1.7%
- そのうち、知的障害を伴わない高機能自閉症が約7割を占める
- 男性は女性の約3~5倍の有病率

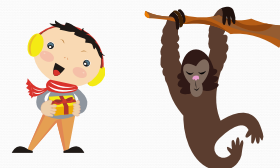
## 心の理論 theory of mind

- 1978年、アメリカの霊長類学者デイヴィッド・プレマックらが提唱
- 「物の世界」: 物理的法則を用いて物の動きを予測できる (例) 坂の上にボールを置いたら転がる
- 心の状態は直接観察できないが、ある種の推論体系を用いることである程度予測できる
- 私たちは他者の心の状態をどのように推測しているか、ということに関する仮説



## 「心の理論」研究

- 「心の理論」課題を解くのが難しい
  - 4歳未満の子ども
  - 自閉症児・者
  - チンパンジー
- アンとサリーの課題
- スマーティ課題



## アンとサリーの課題

これはサリーです。



サリーは、カゴを持っています。

これはアンです。



アンは、箱を持っています。



アンは、サリーのビー玉をカゴから取り出すと、自分の箱に入れました。



サリーは、ビー玉を持っています。サリーは、ビー玉を自分のカゴに入れました。

さて、サリーが帰ってきました。

サリーは自分のビー玉で遊びたいと思いました



サリーがビー玉を探すのは、どこでしょう？



サリーは、外に散歩に出かけました。

● 3歳10ヶ月の女の子

[MVI\\_0647.MOV](#)

## アンとサリーの課題: 解答

- 成人  
「サリーは自分でビー玉をかごの中にしたんだから、かごの中にあると信じているはず」
- 4歳未満の子ども、自閉症児・者、チンパンジー  
「ビー玉は箱の中に入っているから、箱の中」
- 一般的な小学1年生であれば、ほとんどの人が正答可能

## 階層的な理解

- ビー玉とその置き場所をひとまとめにした上で、そのまとまりが誰の知識なのか、階層的に関係づける必要がある
- ✓ 「ビー玉は箱の中にある」という情報を持った状態で、  
「サリーは『ビー玉はかごの中にある』と思っている」という情報を引き出すことができる
- ✓ 「チップスターの箱に鉛筆が入っている」という情報を持った状態で、  
「～ちゃんは『ポテチが入っている』と思っている」という情報を引き出すことができる

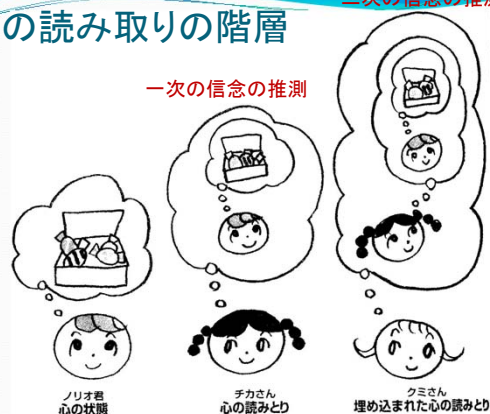
## スマーティ(ポテチ)課題

- スマーティ(アメリカの有名なチョコレートの商品名)
1. チップスターの箱を見せて、何が入っているか尋ねる
  2. 実際には、箱の中には鉛筆が入っており、それを見せる

「～ちゃんがこの箱をみたら  
何が入っていると思うでしょうか？」

## 心の読み取りの階層

二次の信念の推測



- 2歳10ヶ月の男子  
[MVI\\_0632.MOV](#)
- 3歳10ヶ月の女の子  
[MVI\\_0646.MOV](#)

## 他者の心の状態を推測できる

- : 自分と他者を区別して、情報を階層的に理解することができる
- ×: 他者の気持ちがわかる

「共感」や「気持ち」の問題ではない

- 自閉症児・者やチンパンジーは「人の気持ちが分からない」と言っているのではない

(例) 相手が怒っていることは分かる。しかし、相手がなぜ怒っているのか推測するのが難しい。





## 認知システムの違い

- ◆ 他者の心の状態を推測する場合
  - 健常: 無意識で直感的
  - 自閉症: 意識的で努力を要する論理的な情報処理過程

### ◆ ハッペ(1994)

人が字義通りの意味を伝えているのではない場面を描いたストーリーを考案し、実験

## ある20代のアスペルガー症候群の青年(IQ100以上)の答え

- ヘレンが両親にそのような嘘をついたのは、「家族を困らせないため」と、一見妥当な説明をした
- さらに、「本当のことを言ったらどうして困るの?」と尋ねられると、「ウサギはお金がかかるでしょうからね。養育費とか、エサ代とか。」と答えた
- 両親が困るであろうと心の状態に言及することはできても、困る理由として金銭的理由を挙げた
- 普通は、「気に入ると思ってプレゼントしたのに、そうではないと知るとがっかりする」と情緒的な理由を考える

## ストーリー: 罪のない嘘

ヘレンは、クリスマスを一年間ずっと待っていました。というのは、クリスマスには、両親にウサギを買って欲しいと頼めることを知っていたからです。ヘレンは、ウサギ以外は何もいらなくらいでした。

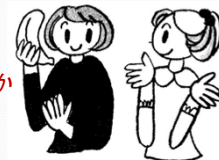
とうとうクリスマスがきて、ヘレンは両親がくれた大きな箱に飛んでいき、包みをほどきました。ところが、家族全員に囲まれて包みを開けると、そのプレゼントはただのつまらない古い百科事典のセットだったとわかりました。

## ストーリー: ふり

ケイティとエンマは家の中で遊んでいます。

エンマは果物鉢から一本のバナナを取り上げて、自分の耳に当てました。エンマは「見て! このバナナは電話よ!」とケイティに言いました。

エンマが言っていることは本当ですか  
なぜエンマはそう言ったのですか?



ヘレンはちっとも欲しくはありませんでした。それでも、ヘレンは両親にクリスマスプレゼントは気に入ったかと聞かれて、答えました。「素敵だわ。ありがとう。ちょうど私の欲しかったものだけ。」

ヘレンの言ったことは  
本当ですか  
なぜ彼女は両親に  
そう言ったのですか



## 答え

一般的な答え

- 「バナナが電話に似ているから、まねしてみただけ」
- ごく自然にふり遊びとして軽く捉えることができる

あるアスペルガー症候群の少女(IQ100以上)

- 「バナナって知られたら、この子が食べたいと思うから」
- 相手をだますという意図をこのような単純な状況にまで適用してしまっている

## 情報処理の仕方の違い

- 自閉症児の多くは、他者に心があることを知っていて、それに対応しようと努めている
- しかし、他者の心に関する**情報処理の方略と結果が通常のものとは異なっている**ため、多くの行き違いが生じる
- PETスキャンという脳の画像検査を用いた検査によると、心の理論の課題に取り組んでいる時、自閉症の成人と通常の成人では脳の異なる領域を用いていることが示唆された(ハッペラ、1996)
  - 情報処理の違いが生理的レベルでも明らかに

## 新生児期

- 赤ちゃんは無力である ???
- 生まれた直後から、能動的に働きかける能力をもっていることが明らかになってきた

### 新生児模倣

- メルツォフとムーアが発見(Science, 1977年)
- 生後12~17日齢の新生児が大人の表情を区別して模倣した

## 心の理論はいつ、どのように発生するのか

- **心の理論**  
欲求や感情、知識、信念といった心の状態について、自分と他者を区別して理解し、他者の行動や心の動きを推測する
- **コミュニケーション能力の基礎**

様々な発達の段階が積み重なって  
4歳ごろに成立



## 心の理論に至るまでの段階

- |         |              |
|---------|--------------|
| ■ 新生児期  | ■ 4ヶ月から1歳半ごろ |
| ✓ 新生児模倣 | ✓ 社会的微笑      |
| ✓ 新生児微笑 | ✓ 人見知り       |
| ✓ 顔の偏好  | ✓ いないないばあ遊び  |
|         | ✓ 指さし        |
|         | ✓ 共同注視       |
|         | ✓ 見立て遊び      |

### 新生児模倣 (生後1時間)





## 新生児模倣(生後5時間)

- [20070423模倣動画¥P1000962.MOV](#)

## 微笑

- 新生児でも、ほほえむことがある  
→ 喜んでいる???



### 新生児微笑

- 特定の刺激に誘発されて生じるほほえみではない
- 生理的なもの
- 口元は笑っているが、目は笑っていない

## 模倣

- コミュニケーションに必要な, 高度な認知能力

時間とともに変化する相手の行動から  
模倣するための重要な情報を取り出す

↓  
その情報をもとに, 見えない「自分の顔の動き」  
との関係を推測する

↓  
視覚情報を自分の運動行為に変換する

## 新生児微笑(生後7日)



## 新生児模倣のメカニズム

- 表象(イメージできる能力)が必要であるため, 新生児模倣のメカニズムに関して大きな議論に
- 新生児はすでに他者と応答しあう存在であることを示唆



## 新生児微笑(生後10日)



### 新生児微笑

- 自発的微笑

### 外発的微笑

- 生後2ヶ月頃から
- 視覚や聴覚といった外的な刺激に対して、ほほえむ
- 誰にでもにっこり笑う

→このほほえみにうれしくなり何度も笑わせようと夢中に

↓

このやり取りの中で  
親と子の相互作用は深まっていく

### 社会的微笑(生後約3ヶ月)



### 外発的微笑(生後約1ヶ月)



### 赤ちゃんは人の顔を見るのが好き

- ファンツの実験(1961年)
- 選好注視法

乳児に、目の前30センチほどの距離で  
2つの異なった刺激パターンを同時に提示する

↓

注視時間に差がみられる

↓


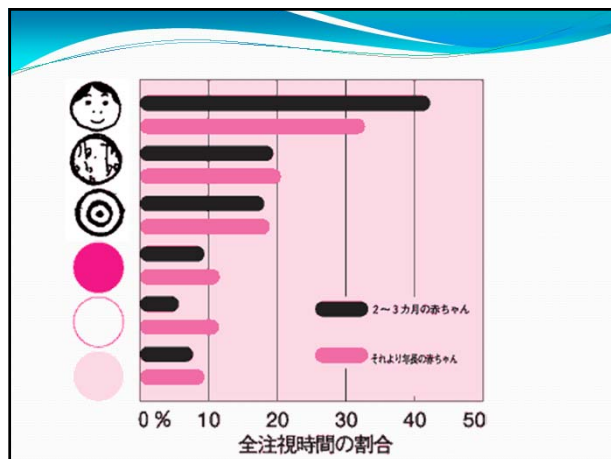
刺激パターンの弁別能力があると考えられる

### 社会的微笑

- 生後4・5ヶ月頃から
- 見慣れた顔とそうではない顔を区別して、ほほえむ

→微笑された大人は自分のことを気に入ってくれたと感じる

微笑がコミュニケーションの  
有効なツールとして機能

## ファンツの実験から

- 赤ちゃんは人の顔を好んでよく見る
- 目の前30センチほどの距離  
= 赤ちゃんが養育者の胸に抱かれた時の距離と一致



顔の形に対する知識や理解がないと思われる赤ちゃんが  
生まれながらにして人の顔を好んで見る



赤ちゃんは、人と関わる能力を備えている

## 吸啜反射(生後4日)



赤ちゃんが養育者の顔を見つめる



養育者の関心を引き出す



赤ちゃんはさらに人の顔に関心を向け、微笑する



赤ちゃんと言育者との相互作用が深まる



信頼関係、愛着の形成へ

愛着: 特定の他者に対してもつ情緒的な絆

## いないいないばあ遊び

### 段階 I (4~6ヶ月頃)

- 養育者があやしてくれること自体が楽しい
- おはしゃぎ反応として喜びを表す



## 人見知り

- 生後7・8ヶ月頃から
- 見知らぬ人や場所に対して、抵抗を示す
- 養育者との愛着関係が形成されている証拠

- 新生児微笑や反射(吸啜・モロー・パビンスキーなど)は見られなくなる
- 大脳皮質が急速に発達するため
- イメージ(表象)を作り上げ、記憶することが可能になる

### 段階 I (4~6ヶ月頃)

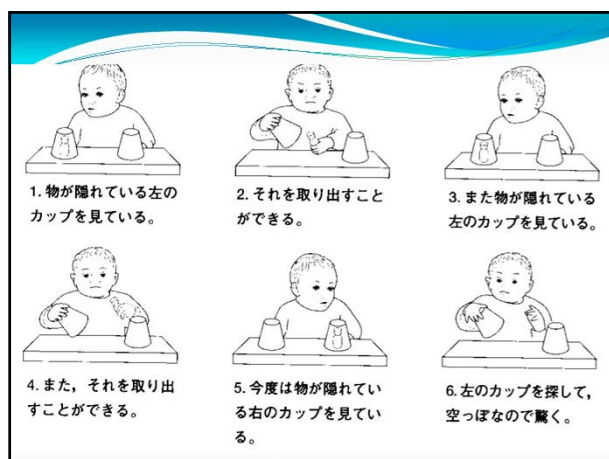
- 顔を隠す際、顔の一部が見えていると、顔が再び出てくることを期待する
- 顔すべてが隠れると再現を期待できない
- 顔を隠さなくても喜んだりする  
→ 養育者が自分に関心を向け、ポジティブな情動で関わってくれることが遊びを成立させている



## いないいないばあ遊び

### 段階Ⅱ（7～9ヶ月頃）

- 物が見えなくなっても存在することが理解できる（物の永続性が成立する）
- 人の顔が完全に隠れても再現されることが期待でき、その通りに顔が出てくることを楽しめるようになる



- 生後6ヶ月前の赤ちゃんは、大好きなおもちゃの上からハンカチをかけられても、ハンカチをどけておもちゃを取り戻そうとはしない
- あたかもこの世からおもちゃがなくなったと思っているかのように、まったく興味がなくなったようなしぐさをする

## いないいないばあ遊び

### 段階Ⅲ（10ヶ月以降）

- 隠れてから再び出てくるというルールが理解できる
- 同じ場所から同じ顔がでてくる単純な遊びよりも、複雑な遊びを楽しむ
- 乳児自身が大人に遊びを仕掛ける
- ふたりで役割を交代して遊ぶ「やりとり遊び」に発展

## 物の永続性

- スイスの児童心理学者ピアジェの理論
- 生後6ヶ月頃までの赤ちゃんは、物体が視野から消えても、それを探そうとしない
- 見えなくなっても物体は存在するという概念ができるのは、生後6ヶ月を過ぎてから
- 遊びや日常生活での経験を通じて形成される

## やりとり遊び

- 「ちょうだい」「どうぞ」
- 自分を他者と対置して捉える自己分化の始まり
- 言語によるコミュニケーションのやりとりと同じ構造



## 指さし

- 通常、10ヶ月から1歳3ヶ月頃に出現
- 2種類の指さしがある
  1. 「あれ取って！」  
要求の指さし
  2. 「あっ、飛行機だ！」  
叙述の指さし

## 叙述の指さし

- 一緒にみてほしいものを指さす行動
- 自分の驚きや喜びを呼び起こした物とその感情を**他者と共有する**
- ものごとのとらえ方が発達した証拠

二項関係から**三項関係**へ発展

## あっ、飛行機だ！



関心を持った物を指さしながら、相手と物を交互に見て、相手が自分の指さす方を見ているか確認

↓

相手が「飛行機だね」といって、感情を共有する

↓

満足げに指さした手を下ろす

## 二項関係

- 10ヶ月頃前
- 「**子ども－相手**」のやりとり
- 「**物と関わる子ども－物**」のやりとり

例(「物と関わる子ども－物」のやりとり)

おもちゃを渡すと、赤ちゃんは一心不乱に左右の手で持ち替えたり、口にいれたりする



例(「子ども－相手」のやりとり)

そのときに大人から声をかけられると、注意が移り、手に持っていたおもちゃを手放して大人のほうへ向く

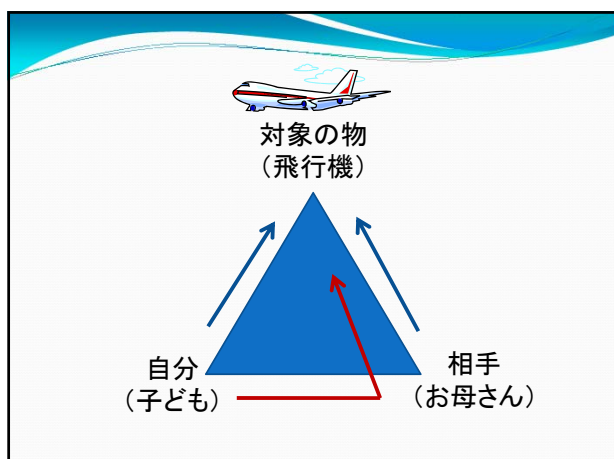


## 三項関係

- 10ヶ月頃以降
- 「**子ども－対象－相手**」のやりとり
- 物に関わり合いながら、同時に大人とも関わる

例:

- おもちゃを渡すと、受け取った後、大人の顔を見て、笑いかける
- 叙述の指さし(あっ、飛行機！)



## 共同注視行動の役割 その2

### ◆心の理論の発達の起源になる

- 相手の視線, 表情, 態度など, 非言語的コミュニケーションのやりとりを理解  
(例) 「ん? あれはなんだ?」という視線をむける
- 相手がどこに注意を向けているかという心の動きを推測



他者の心の理解と密接に関係している

## 共同注視

- 叙述の指さし(あっ, 飛行機!)は, 三項関係を表す **共同注視行動**のひとつ
- 子どもと大人の間で, ひとつの共通した対象に注意をむける
- 「ひとつのものを一緒にみる」ことは, 人間にとって重大な意味をもつ現象



## 9ヶ月革命

- 叙述の指さし・三項関係・共同注視行動が始まる時期
- 親との関係が質的に変化する時期  
→ 親の存在が**安全基地**となる

### 安全基地

- 親との愛着関係が確かなものになった後, 親を安全基地として外への関わりをはじめ
- 乳児は親を不安や恐れを感じるといつでも戻ってこられる心のよりどころとして, 知覚・運動を発達させていく

## 共同注視行動の役割 その1

### ◆赤ちゃんがことばを獲得する基盤になる

赤ちゃんの周囲には, 様々な物・出来事・音がある



「ひとつのものを一緒にみる」



飛行機ということばが生まれる



ことばは, 人と人の間のやりとりから獲得される

## 見立て遊び

- ままごと, 電車遊び, など
- 1歳半頃からみられる
- 高度な認知能力を持っているからこそできる遊び
- 見立てるために必要な力

1. 表象
2. 象徴機能



## 表象

- 目の前にそのものがない場合でも、心の中にそのものや事柄を思い浮かべる、イメージすることのできる能力

(例) ままごとで「砂」を「ご飯」に見立てる場合

- 「ご飯」に関する知識
- 目の前に「ご飯」がなくても、それを心の中に思い浮かべることができる能力

## ものを見立てて遊ぶ過程

目の前に存在する現実世界を認識する  
(あっ、砂がある！)



心の中にイメージする(表象)  
(ご飯！)



別のものに置き換える(象徴機能)  
(砂をご飯にして遊ぼう！)



## 表象

(例) 「大きい」積み木を「お父さん」、「小さい」積み木を「赤ちゃん」に見立てる場合

- 「お父さん」「赤ちゃん」に関する知識
- 「大きいもの＝大人」・「小さいもの＝子ども」という上位概念

具体的な対象物についてのイメージだけではなく  
漠然としたものもイメージできる

## ものを見立てる子どもの心

### ◆ 現実の世界と想像の世界をきちんと区別している

- (例) ままごとで「砂」を「ご飯」に見立てる場合
- おいしそうにご飯を食べる「ふり」をして、本当に食べたりはしない
  - 子どもは心の中で「本当は砂だけれども、このままごとではご飯のふりをしているんだ」と認識している
  - 大人に砂のご飯を見せて喜ぶ  
→ 「砂をご飯にしているよ」という面白さを伝えたい
  - 本物が手に入らない「子どもだまし」な世界？

高度な認知能力を働かせながら  
見立てること自体を楽しんでいる

## 象徴機能

- 事物や事象を、記号などの別のものによって認識する働きのこと

(例) ままごとで「砂」を「ご飯」に見立てる場合

- 「砂」を本来のものとは異なった、「ご飯」という別のもの(象徴的記号)としてとらえている
- 「砂-ご飯」の関係を、「意味するもの-意味されるもの」として認識している

## 乳児期の自閉症児

- 視線があわない
- 人の顔や声に興味を示さない
- 抱っこをいやがる
- お友達と遊ばない
- おとなしく、手がかからない
- 人見知りが少ない
- 指さしが少ない
- 見立て遊びが少ない
- 赤ちゃんことばがすくない



## 自閉症の子どもの場合

- 一緒に見て喜ぶ、といった指し行動がでにくい
- 共同注視や三項関係がでにくい



基本的な人への関心が弱い

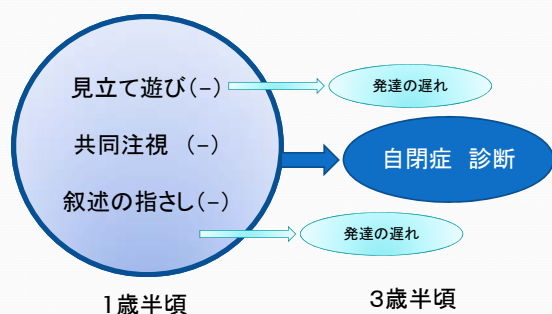
- 他者が存在するという感覚や他者への信頼感が弱い
- 自分の体験と他者の体験を重ね合わせることが難しい
- 対人関係の基礎である親との愛着関係が形成しにくい
- 人との独特の関わり方をするように

## 基本的な生活習慣



- 幼児期は、食事、睡眠、排泄など生理的な側面にこだわりが生じやすい時期
- 自分のことは自分でやる習慣をつける時期
- 家庭と情報を共有しあう
- 強いこだわりが固定化される前に、正しい習慣を
- 「自分の思い通りばかりにはならない」ことを学ぶ
- 良い行動を励まし、褒める

## 自閉症の早期発見の指標



## 認知能力を高める遊び

- 特別な活動ではない  
(例) 折り紙、粘土遊び、お絵かき、絵本、紙芝居、工作、まねっこ遊び、鳴きまね遊び、ごっこ遊び
- 他の子が楽しんでいても興味を示さない  
→ 興味がない?  
→ 新しいことへの抵抗?
- ただし、強制させない  
• 感覚過敏への配慮が必要



## 自閉症の子どもと関わるには

- ◆ 障害としてではなく、個性として捉える
  - 医師としてではなく、保育士として
  - 悪い面もあれば、良い面もある
- ◆ 「心」の理解よりも「行動」の理解を促す
  - 「〇〇ちゃんがそうされたらどう思う？」情操教育
  - 自分の行動の結果として何が起きるのか具体的に説明
  - 良い行動をほめる(行動療法)
- ◆ 親のしつけや担任の能力のせいではない
  - 「親」は無資格でなれる
  - 燃え尽きないよう、園全体で取り組む

## 運動

- 「落ち着きがない」背景には、平衡感覚の鈍さ
- 身体全体を使った運動が有効  
(例) トランポリン、ジャングルジム、アスレチック、木登り
- 作業療法士による感覚統合療法



## 対人関係

- 上手な関わり方がわからず、たいたりつきとばしたりする子も
- まずは、先生との関係を作るところから
  - その子が好きな活動を通して、一対一で楽しさを共有
  - 少しずつ一緒に遊ぶ友達を増やしていく
- 不安を感じないようなきめ細かい配慮が必要
  - 肌と肌の接触を嫌がる子も  
(例) ほおずり, 手をつなぐこと, 抱っこ

## 診断を受けた保護者への支援

- 障害受容ができていない時期
  - そんなはずはない
  - いずれ普通になる
  - なんでうちの子が
  - 私の育て方のせいだ
  - 育てにくい子の子育てに苦勞している
- 不安や苦しみを受けとめ、一緒に考える
- うまくいった・いかなかったかかわりを共有
- 情報提供